

長)は、現行の入学定員百人を来年四月から二十人増やし、百二十人にする。同短大が本年度入試の志願者増を受け、今夏、文部科学省と厚生労働省に申請し、三日までに認可された。

同短大は栄養士を養成する食物栄養学科の単科

の五十人二クラス、計百人から、四十人三クラス、計百二十人とする。本年度行われる来年度入試から適用する。定員増に伴い、専任教員も十人から十二人に増やす。

定員増の内訳は、推薦入試枠で十人、一般入試枠が五人、社会人入試枠

まで「若干名」とし、定員に数えていなかった。定員増は、同短大が今年七、八月に、文科省と厚労省に申請。昨年度実施した本年度入試の志願者が大幅に増え、倍率が例年の一・三一一・四倍から一・六倍に上昇し、「合格が難しい状況となり、地域のニーズに応えられなかった」（上平学長）ことを踏まえた。

文科省によると、少子化の影響で特に地方の短大は学生集めに苦戦し、定員増の申請はごく少数という。同短大は「就職

文化財の校舎守りたい

消防庁などが主催する
本年度の「防災教育チャ
レンジプラン」実践団体

み、災害から校舎を守る意識の高さがうかがえる結果となった。

文化財の指定を受けている校舎について、82・3%の生徒が「遺愛の誇り

に選ばれた遺愛学院遺愛女子中・高校（野田義成校長）がこのほど、全生徒を対象に防災意識に関するアンケートを行った。

アンケートは中学、高校両校の生徒計八百四十一人が対象で、九月初旬に実施。ほぼ全員から回答を得た。

なので今のままでよい」と回答し、生徒の校舎に対する愛着の深さを示した。

一方、家庭内での災害

た。文化財として貴重な
同校校舎については、約
八割が現状の維持を望

本館と旧宣教師館が国の重要文化財（重文）、講堂と謝恩館が国の有形

対策については、70・6%が「避難方法を決めていない」、60・7%が「非

遺愛中・高生に防災意識調査

8割「今のままで」

常時の家族の連絡方法を
決めていない」と答え、
課題も浮き彫りになっ
た。

同プランの実践団体に
認定されて以来、同校は
地域と連携して防災活動

に精力的に取り組み、六月には新体育館を非常時の避難場所として地域住民に開放することを決めたほか、七月には周辺町

会と合同で放水訓練も行った。

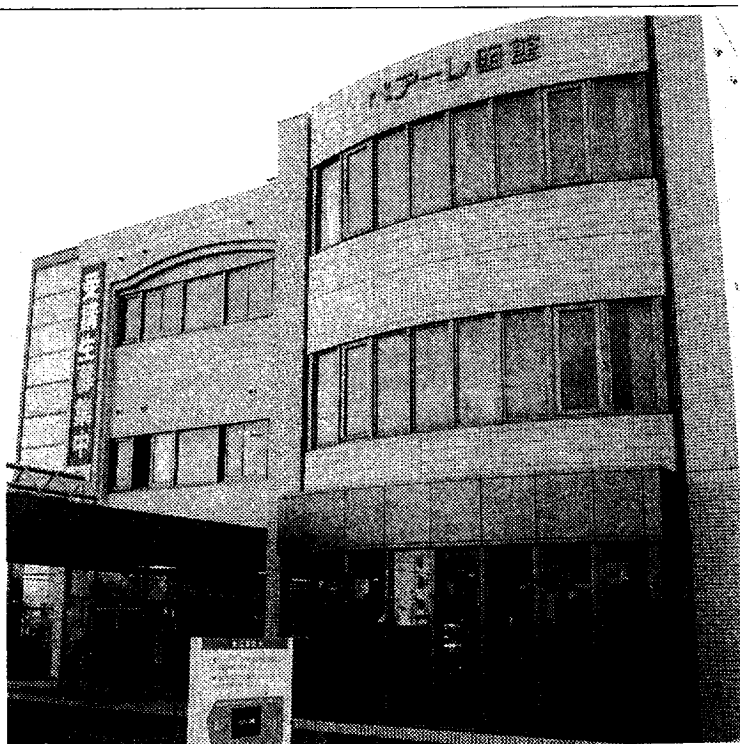
(石川泰士)

函館社会保険健康センター
来年3月で閉館

来月入札 事業継続は未定

函館市乃木町八の函館
社会保険健康センター
「ペアーレ函館」が来年

来年3月で閉鎖されるペアーレ函館



で売却先が
決まる見込
し。

同セシ
ーは土地
約三千九
平方呎、
筋コンク
ート三階
ての建物
延べ約千
百平方
で、プー
やトレー
ングル
ム、多目
ホールな
がある。